

## 圏央道－横浜環状南線（釜利谷 JCT～戸塚 IC(仮称)）

# 『環境影響の照査結果』 についてのお知らせ

### 記者発表資料

高速横浜環状南線は、平成7年4月の都市計画決定後、測量、調査、設計及び用地買収を進め、これまでに設計・用地説明が全線で完了し、用地進捗率は約75%（平成24年8月末時点）となっています。

今般、国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所及び東日本高速道路株式会社関東支社横浜工事事務所では、本事業における周辺環境の適切な保全を図るため、現時点での最新のデータと予測手法を用いて環境影響の照査を実施しましたので、その結果についてお知らせ致します。

#### [今回照査の主な結果]

大気汚染、騒音、振動及び低周波空気振動の環境項目について、今回照査を行った結果、それぞれの環境保全目標（低周波空気振動については参考指標）を満たしています。

今後、技術の進展やデータの蓄積を踏まえ、環境影響の調査検討を実施し、周辺環境の適切な保全に努めてまいります。

なお、本照査結果の詳細は、別添の参考資料のとおりです。

また、以下のホームページでもご覧頂けます。

よこかんみなみ (<http://www.yokokan-minami.com/>)

横浜国道事務所HP (<http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/>)

平成24年10月19日

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所  
東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜工事事務所

#### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	神奈川建設記者会	神奈川県政記者クラブ
横浜市政記者会	横浜ラジオ・テレビ記者会	鎌倉市広報メディアセンター

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所  
計画課長 くぼ なおや 久保 尚也  
電話045-311-2981  
東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜工事事務所  
工務課長 おぎの まさゆき 荻野 政行、環境技術課長 すぎざき こうき 杉崎 幸樹  
電話045-352-3771

## 圏央道—横浜環状南線

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)の一部で、横浜環状道路の南側区間でもある横浜環状南線は、横浜横須賀道路の釜利谷ジャンクションと国道1号を結ぶ、延長約8.9kmの自動車専用道路です。全線の約7割がトンネル、または半地下構造となっています。



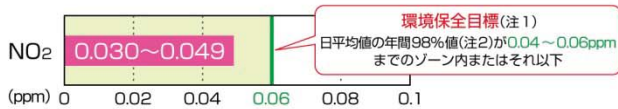
## 環境影響の照査結果(概要)



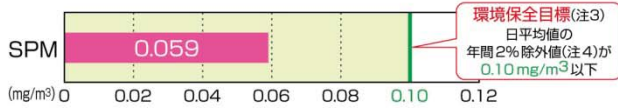
「大気汚染」「騒音」「振動」「低周波空気振動」について「環境影響の照査」を行い、4項目すべてで、環境保全目標\*を満了結果となりました。 ※低周波空気振動については参考指標

「環境影響の照査」は、横浜環状南線における周辺環境の適切な保全を図るため、最新データと予測手法を用いて実施したものです。以下のグラフはその結果の一部で、今回の照査で得られた予測値の範囲を示しています。

### ●大気汚染【二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)/浮遊粒子状物質(SPM)】

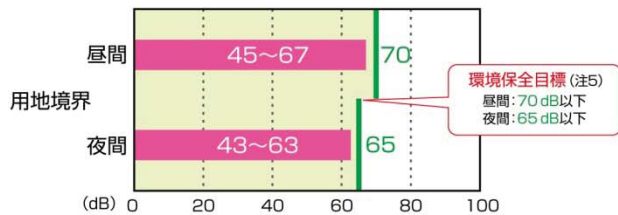


(注1)環境基本法に基づく二酸化窒素に係る環境基準  
(注2)1年間の測定で得られた1日平均値のうち、低い方から98%目当たる値。  
例えば、年間有効測定日が350日の場合、低い方から343番目(350×0.98=343)の値。



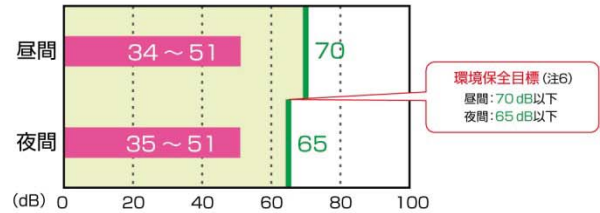
(注3)環境基本法に基づく浮遊粒子状物質に係る環境基準  
(注4)1年間の測定で得られた1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にある値を除外した後の最高値。  
例えば、年間有効測定日が350日の場合、高い方から7個(350×0.02=7)を除いた最高値。

### ●騒音【昼間/夜間(午後10時~午前6時)】



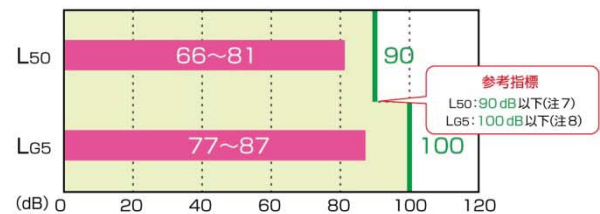
(注5)環境基本法に基づく騒音に係る環境基準

### ●振動【昼間/夜間(午後7時~午前8時)】



(注6)振動規制法に基づく道路交通振動の限度

### ●低周波空気振動



(注7)L50(1~80Hzの50%時間率音圧レベル):一般環境中に存在する低周波音圧レベルの中央値。指標値90dB以下では、人体に及ぼす影響を証明し得るデータは得られていません。

(注8)L65(1~20HzのG特性5%時間率音圧レベル):ISO7196に規定されたG特性低周波音圧レベル。G特性は超低周波音の人体感覚を評価する指標で、指標値100dBは平均的な被験者が知覚できるレベル。